
ユウ

RIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユウ

【NZコード】

N3821D

【作者名】

RIA

【あらすじ】

事故で死んだ男が蘇った。別な男の体を借りて

プロローグ（前書き）

初めまして、RIAと申します

初めて書いた小説ですので、いたらない所もあると思いますが、暖かく見守ってください。

プロローグ

俺

みょうじゅつ
明神 悠

はどこにでもいる、ただの凡人だった。

一人っ子で、父親はサラリーマン、母親は主婦 金持ちでもないが、貧乏でもない家に生まれた。

成績、下の上、顔、中の下、運動神経、あんまよくない、性格、悪くないけど良くもない。

これは友達が『羨妬めに』見て言つたこと。

年齢=彼女いない暦、好きな人がいても告白する勇気がない。

将来の夢とか、希望とか、ぜんぜん持つてない、ちょびっとヒック一気味。

欲しい物なんて何一つ持つていなかつた。

なんとなく毎日を生きて、これからもそうやって生きていく、

それが普通なんだつて

そう思つてた。

あの日までは

あの日、俺はチャリで友達^{ダチ}と6人で買い物に行つてた。

多分、受験を控えていたから、友達とつるむのもこれが最後だと思つてた。

普通の買い物だつた。

買い物終わつて、帰り道 、

「これからどうする?」

「うーん

友達^{ダチ}とそんな会話しながら、曲がり角曲がつたら

俺たちの田の前にトラックが衝突しようつとじついた。

運転手が寝ていて、スピードが落ちないことに悟ると、

「危ない!!

「ドンー!」

気づくと、俺は友達を突き飛ばしていた。

グシャ

田の前が、

真っ白になった。

俺は友達かばつて、

居眠り運転のトラックに轢かれて

死んだ

死んだはずだつた。

だけど面識もなかつたソイツが

木村タと書つ名前の男のおかげで、

生き返つた。

ソイツはいきなり俺の夢の中に現れた。

とにかく美形な、男の俺でも惚れちゃう（別にそつちも
気はないが）パーカークトな格好良さだった。

ソイツは俺にこういった。

「ボクは生きるのに疲れた。

だからこの体、君にアゲルよ。

君はこれから木村タとして

生きていくんだ。

頑張つてね。」

その男は俺の返事も聞かず、どこかにいってしまった。

次の瞬間、俺の目の前には、

病院の天井が見えた。

俺はびっくりその男の体に憑依してしまったよつだ。

それが元の町の周りには

いや、これは後のお楽しみにしておこう。

この物語は

俺こと、明神悠が木村タといつ

まったく別な男になってしまった物語。

そんな物語。

始まり（前書き）

大変長らくお待たせいたしました

ご覧ください

始まり

俺が目を開けると、真っ白な天井が見えた。

「はいだ？」

すると、近くにいた看護士が歓声をあげる。

それを見て俺はここが病室だと知った。

それも驚いたが次の言葉にさらに驚かされた

（先生、少年が蘇生しました、か）
納得しそうになつた が

9

（ちよつと待てよ
（ ） いぞ
（ ） ）

なんで理解できてんだ？俺はそんな頭よくな

「ウ！」

そう叫んで病室に入ってきたのは見知らぬ女性。

まるでモデルのようなプロポーションに端正な顔立ち。

長い黒髪は腰までかかる、きれいな髪。

「ええっと、どちら様ですか?」

そのコトバを口にした瞬間、女性が凍りついた。

「今なんて

そのただならない雰囲気に医者達も困惑する。

その時、何の気なしに鏡を見た。

その辺の姿

俺じゃなかつた。

その後のドタバタは

とんでもないぐらいすごいものだつた。

俺が再びその女性にあつたのは3日後のこと。

様々な検査を受けてからのこと。

その女性から聞いたことは、驚きの連続だった。

まず俺
明神悠
は今、木村タ
という男の体にな
っている

うじー。

そしてこの女性は木村尋菜といつ名前で、木村夕の母親といつ」と
らしへ。

つまり、俺は見ず知らずの人間に乗り移つたみたいだ。

理由は謎、解決方法も謎。

とりあえず、周りは部分的な記憶喪失だと思っているようだ。

それに、どうやら脳みその質は木村夕のままであるようだ、前なら
絶対答えられないような難解な数式なんかも解くことが出来た。

そのおかげで「普通に生活をせひみる」といつ措置がとられた。

明日から俺は木村家で生活する」とになつた。

その日の夜

「おい」

いきなり何かに話しかけられた。

「何か、は酷いだろ?」

「田を開けるとそこには

「体の持ち主に、さ

「今の俺、つまり 木村夕がいた。

「どう? その体は不都合などはある?」

「不都合だらけだよ。まずなんでこうなつたか説明しろ

「ま、そのうちにね。大丈夫だよ、心配しなくても」

やつ言つて消えた。

「心配に 決まってんだろ」

こうして、俺の、木村夕としての生活がスタートした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3821d/>

ユウ

2011年1月16日09時34分発行